



会報

令和6年
会報第1号

発行・編集

鹿児島県教頭会

〒892-0836

鹿児島市錦江町2-16

鹿児島県公立小・中学校

教頭会館県教頭会事務局

Tel 099-226-8268

Fax 099-822-5580

会長就任のあいさつ



鹿児島市立武小学校

五反田 新一

五月九日に開催されました県公立小・中学校教頭会委員会におきまして御承認をいただき、会長に就任することになりました。

歴史と伝統のある県教頭会の会長という大役を引き受けさせていただくことに責任の重さを痛感しております。県下の教頭先生方のことを思い浮かべながら、微力ではありますが精一杯取り組んでまいりたいと思っております。皆様の御支援と御協力をどうぞよろしくお願いたします。

本年度の県公立小・中学校教頭会の会員数は、六九三名、うち新任の教

頭が一〇〇名です。昨年度よりやや会員数が増えたことは喜ばしいことだと思います。この全会員の皆様が、教頭会の活動を通じて連携を図ることができれば幸いです。さて、社会や教育を取り巻く環境は大きく変りわかってきており、グローバル化や人口構造の変化、社会経済的な課題など解決の難しい課題も山積しています。次代を担う子供たちに予測困難な時

代を生き抜くために必要な力を身に付けさせるためには、学校・家庭・地域で連携、協働してよりよい学校教育を展開していくことが不可欠です。

今年度の研究は、第三期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり」の二年目の研究となります。「未来を切り拓く力」とは、よりよい社会や幸せな人生を積極的に築き上げていくために、自らの個性を發揮し、自信をもって自らの未来を、自らの手で切り拓く力であり、様々な困難や課題に自ら考え、判断し、積極的に対応する力と考えています。「魅力ある学校づくり」については、子供たちが笑顔で学校に通い、安心して教育を受けられることはもちろん、保護者や地域住民の方に信頼され魅力を感じていただける学校、そして、我々教頭にとっても、そこで働く全ての職員にとっても「魅力ある学校」となるように努めていく必要があります。私たち教頭は、「職能研修団体」としての職務の専門

性を高め、幅広い教育課題に対応していく資質や能力を身に付けていかなければなりません。

そこで、本会では次のことに重点を置いて活動を進めてまいります。

第一に、第五十八回研究大会が多くの会員の皆様にとつて充実したものであるように、提言者や指導助言者、役員として御協力いただく先生方等のお力を借りながら運営してまいります。昨年度四年ぶりに参集しての大会を開催することができましたが、運営面や日程等についての課題もありましたので、それを踏まえながら準備を進めてまいります。

次に、教頭の処遇改善に向けた調査活動に努めるとともに、県教育委員会や県連合校長協会、全国公立学校教頭会などの各種団体とも連携を強化し、要請活動を継続してまいります。

三つめに、県教頭会のホームページを広く周知し、九州大会や全国大会、各種研修会における最新情報を発信してまいります。

四つめに、今年度の研究大会の反省をもとに、次年度の研究の方向性を定めていくことです。前記しました研究主題の研究は、来年度最終年度となります。各地区の委員、研修部長、提言者の皆様と連携を深めながら進めてまいります。最後になりましたが、様々な課題が数多くある教育現場であります。この難局を乗り越えていくためには、教頭先生方のこれまでの経験と建設的な御意見が必要です。県公立小・中学校教頭会は、今後も広く会員の皆様の声を聞かせていただき、それを活かしながら相互の連携を深め、充実した活動を進めていきたいと思っております。令和六年度の各学校の教育活動が充実し、本県教頭会が順調に前進することを祈念しあいさつとさせていただきます。





『まんがで知る未来への学び』

著者 前田 康裕
発行所 さくら社

湧水町立吉松小学校

櫻木 俊郎

子供の頃からマンガが好きで、『火の鳥』（手塚治虫）『三国志』（横山光輝）『スラムダンク』（井上雄彦）は、今でも愛読書であるとともに、学ぶことが多いことがあった。また、『学習まんが日本の歴史』（小学館）シリーズは社会科への興味・関心を高め、知識を得るのに大いに役立った。反面、文学を読む習慣は身に付かなかつた。文字量が多くなればなるほど敬遠している書物の中で愛読書となったのが本書である。

物語は、かつて宿場町として栄えながらも、急速な人口減少に悩み、少子高齢社会の中で活性化を模索する町の中学校を舞台に描かれている。教師を目指す教職大学院院生の森炎（しんえん）さんが研究の一環として

中学校で実習を行うことになった。

「なぜ主体的・対話的で深い学びなんですか」

森炎さんの率直な質問をきっかけに担任の桜山先生に「新しい時代に求められる資質・能力って何」「どんな教育が求められているの」と問いが生まれる。よりよい地域社会を創るために、生徒や同僚、地域の

高年齢者や商店街の人々、大学で開催された「大人の学び場」で出会った人々など、立場や学び方の異なる多くの学習者とのふれあいを通して、それぞれに成長していく登場人物たち。本書は、教諭や教頭、指導主事の経験がある筆者が、リアルな学校現場を描きつつ、様々な人々が関わり合い協働することで互いに成長していく姿が描かれているため、感情移入しやすく、前向きになれる一冊である。

現在、新規採用職員や学習者主体の授業づくり、総合的な学習の時間のカリキュラムづくりなどで困り感をもつ職員に紹介しているところである。

本書と併せて、『まんがで知る教師の学び』『まん

がで知るデジタルの学び』もお勧めである。

『恋文賛歌』

著者 鬼塚 忠
発行所 河出書房新社

屋久島町立宮浦小学校

永田 洋一

こうあるべきを超える

前任校では、フェリーでの通勤が日常だった。片道十五分という短い時間だったが、その十五分は読書に最適な時間であり、フェリーの前方の席に腰掛け、海原を一瞥した後に仕事鞆から本を取り出すことが習慣となっていた。四年間通い続け、多くの本を読むことができた。そんな中でも、鬼塚忠の『恋文讃歌』は今でも心に深く残っている。

鹿兒島、北朝鮮、シベリアを舞台に展開されるこの作品は、戦争に翻弄された夫婦の愛と、その子、孫へと受け継がれていく様子を描いている。特に、シベリア抑留中の祖父が祖母

へ送った暗号の恋文が解読されるシーンでは、数字の羅列が深い愛情を表現する美しいメッセージとして明らかになり、その瞬間に心が強く揺さぶられる。

物語を通じて、戦争という厳しい現実の中で愛と絆を守り続けた人々の姿に深い感動を覚える。主人公が祖父の姿に対して抱いていた嫌悪感が、彼の半生や愛の深さを知ることと変わっていく様子もまた、多様な視点で人を理解することの重要性を教えてくれる。

この視点の変化は、教育現場における私たち自身の姿勢にも通じる。多様な視点から自分や周囲を客観視することは、経営の一翼を担う者としての成長に不可欠である。昨今の教育現場では、様々なニーズや状況が急速に変化しており、どのように柔軟に対応し、適応していくかが求められている。固定観念や「こうあるべき」といったイラショナルビ

リーフを超えることが、円滑な学校経営に繋がる。時代や状況に左右されることなく、困難な状況においても希望を持ち続

けたい。そんな思いにさせてくれる、この『恋文讃歌』は心に響く一冊であり、ぜひあなたにも読んでいただきたい。

新任教頭雑感

この夏の経験をを通して

南さつま市立笠沙小学校

教頭 大迫 聡子

夏休みも最終週を迎え、新学期を目前にした八月下旬、台風十号が鹿兒島県本土に接近、上陸した。南さつま市は暴風により多くの地域が停電になり、約三日間、電気が使えない日々を過ごした。電話も通じず、通信状況も不安定で外部との連絡を取ることもままならない状態であった。

これまで様々な災害のニュースを目にし、その大変さに心を寄せてきたつもりだった。しかし、いざ自分が経験してみると、情報を得ることができず、周りとのつながりが絶たれる

随想



戸締り掃除

ことがどれだけ不安なものであるかを実感した。幸いにも多くの方々の尽力により当初の予定より早く停電は復旧し、無事に二学期をスタートすることができた。

さつま町立盈進小学校

内 芳文

この経験以降、これまで以上に災害や事故などの情報に敏感になった。そして、自分事としてとらえるようになった。「自分だったら」という視点をもつことで見えてくるものがあり、できることがあると思う。不測の事態にどのように対応するのか備えておくこと、そして、児童や職員、さらには自分の命を守り、緊急時にも学校が機能するような体制づくりを改めて見直す必要があると感じている。また、食事の心配をして、食料を持って来る職員、充電ができるよう、発電機を持って来る職員など様々な心遣いをいただき、心強く感じたことも忘れられない。人と人とのつながりの大切さも改めて実感し、感謝した。

教頭一年目の夏、このような貴重な経験をしたことは大きな学びとなった。これからの歩みの糧とし、今後につなげていきたい。

何があつても意地でもこの戸締り掃除を続けることにした。

勝手に始めて義務感を感じていた矢先に、ある研修会で次の言葉に出会った。「教頭が動けば風が吹く」...

その風は、敬意の風、感謝の風、感動の風、安心の風というお話だった。私の行動にも意味があるのかもしれないと思えた。と同時に、掃除をする私にお礼を伝えたり、放課後に教室や玄関の掃除をしたりする先生方の顔や姿が脳裏に浮かんだ。私は、恩着せがましい自分を恥じた。敬意と感謝も嬉しいが、安心の風や「前向きな風」が大事ではないかと思った。それ以来、自分のために、戸締り掃除を楽しんでいる。無私の行動が、学校にさわやかなよい風を吹かせてくれると信じながら。

私の放課後の日課は、幅55cmのプラ箒を持つての校舎の戸締りだ。運動場整備のようにプラ箒で廊下の埃や児童玄関の砂を集めて捨てる際に「おお、こんなに集まったか」と思う瞬間が好きだ。断つておくが、本校の掃除が行き届いていないという訳ではない。元々校内に砂が入りやすい校舎の構造と、校時表の見直しによる掃除時間の減少が、私にとって「少し気になる」状態を生み出していったのだ。「戸締り掃除」は、私が勝手に始めたのである。さて、勝手に始めた戸締り掃除だったが、「なんで自分が掃除をしないといかんのか」と思うことも多々あった。勝手に始めたのに。時間が無い日は、戸締りだけの日もあった。しかし、掃除をした日の翌日と比べると翌朝の気持ちよさが全く違った。だから

自由投稿



自律してこそその自立

鹿屋市立花岡小学校

西田 成子

今年度、本校は通常の学級6、特別支援学級は2増えて5となった。お陰でマンパワーは充実したが、課題は相変わらず山積みだ。「どうすればこの子の気持ちちは落ち着くのか」と目の前の子供の姿を見るにつけ、悩む日々だが、将来を見据えて「どうすればこの子の人生は豊かなものとなるのか」と長期的な支援をしたいと常々思っている。

ある学習会で、障害のある人の就労には現在でもまだ壁はあるが、サポート面は充実してきていると聞いた。そして、自立した大人に育てるためのポイントを五つ学んだ。

- 1 楽しみをたくさんもつておくことは、働く意欲につながる。
- 2 物欲が強い子は、仕事も長続きする。

3 勉強よりも、生活面の充実をめざす。(健康な体・元気な挨拶・お金の管理・こまめに連絡をする等)

4 「何か仕事はありませんか」と、自ら仕事を開拓していく力を付ける。

5 四年生レベルの学力を付ける。(車の免許を取得できる程度の学力)

つまり、「自律」してこそ「自立」だということになるのではないか。基本的な生活習慣を整え、コミュニケーション能力を身に付けることが、ひいては学力向上につながることに同じだと思ふ。

そう考える私自身、自律から見直さねばならない。いつになったら自立できるのだろうか。